

発達障害の可能性を考えるようになるきっかけは様々です。今回は大学の学業において、しばしばきっかけになることを取り上げてみたいと思います。それは、課題が出せずに単位を落とし、「怠けグセ」があるということで相談につながるケースです。こういうケースで発達障害が関わっていることがあります。自閉スペクトラム症(ASD)とADHDでは関わる要因が異なります。

受動的なタイプの ASD

コミュニケーションの障害と思われがちなASDですが、中には受動性が強く、自分の意志で行動することが困難なタイプがあります。この場合、話しかけられない限り黙っていることも多いので、会話の困難は目立たず、なんとなくやる気のないタイプと思われていることも多いでしょう。課題も自分の意志で取り掛かることが困難で、いくつか出せないまま終わってしまうと、それがルーチン化して(周りも「そういう人だ」と諦めて)、「怠けグセ」という印象になります。しかし、多くの場合、サボりたいという積極的な意志はありません。

この場合、意志の障害へのサポートが必要で、教職員や相談員が毎週「課題やった？」と声掛けするだけでも、変わってくる場合があります。弱っている「意志」を補強するようなイメージですね。



多動と不注意のダブルパンチ (ADHD)

ADHDを持っている人の場合、「怠けグセ」は大抵、「後回しにしよう」という説明とセットになっています。ADHDの二大症状は多動と不注意です。課題に取り掛かって、すぐに「あれをやっておこう」と思い立って、別のことを始めます。時間をちゃんと確保しておいたつもりが、いつの間にか他のことを考えていて時間がなくなっていたりします。結果として、本格的に課題に取り組むのは締切り直前ということになり「後回し」という印象になります。「計画的に」というアドバイスは「机上の空論」なので、それよりもカレンダーアプリを使いこなしたり、リカバリー方法を用意しておくことが有効です。



ASDの場合も、ADHDの場合も、合理的配慮を申請することで、課題の締切りを延長できる場合もあります。詳しくは学生相談室にご相談ください。